

可茂消防事務組合のあゆみ

昭和29年 4月	美濃加茂市消防本部、消防署設置
昭和40年 4月	可児町消防本部、消防署設置
昭和45年 4月	美濃加茂市、坂祝町、富加村、川辺町、八百津町、可児町、御嵩町、兼山町の1市7町村をもって可茂消防事務組合を設立 美濃加茂市消防署を中消防署、可児町消防署を南消防署と改称し、業務を開始 管理者 岸 東八郎 氏 (美濃加茂市長) 副管理者 林 桂 氏 (可児町長) 〃 飯田 藤行 氏 (八百津町長) 消防長職務代理者 山田 丈一 就任 消防職員55名 消防ポンプ自動車3台、水槽付消防ポンプ自動車2台、救急自動車2台、その他2台
5月	初代消防長 松田 宮吉 就任
8月	美濃加茂市から日本損害保険協会より寄贈のあった消防ポンプ自動車「火災保険号」の譲渡を受け、中消防署に配備
11月	日本赤十字社可児支部より救急車の寄贈を受け、南消防署に配備 南消防署に消防ポンプ自動車を配備
昭和46年 2月	中消防署、南消防署に広報車を配備
3月	中消防署に化学消防自動車を配備
4月	消防職員87名 富加、川辺、八百津、御嵩各出張所竣工開所 各出張所に職員8名、水槽付消防ポンプ自動車(小型動力ポンプ積載)1台、単車(50cc)1台を配備 本部に基地局を設置、全車両に超短波10Wの移動局を積載、中消防署・南消防署に携帯無線機各2基を配備
11月	日本赤十字社可児支部より寄贈を受け南消防署に配備した救急自動車を、御嵩出張所に配備(職員2名増員)
昭和47年 1月	本部に警防課を新設
3月	各出張所に長短波携帯無線機1基を配備
4月	消防職員94名
昭和48年 1月	川辺町から日本赤十字社川辺分区より寄贈のあった救急車の譲渡を受け、川辺出張所に配備(職員2名増員)
3月	多治見市と相互応援協定を締結
4月	本部庶務課を総務課に改称 消防職員97名
9月	岐阜県共済農業協同組合連合会より救急自動車の寄贈を受け、中消防署に配備
10月	中消防署に配備してあった救急自動車を八百津出張所に配備(職員2名増員)

昭和49年 4月	本部警防課を予防課、消防課の2課に改組 消防職員96名
7月	構成の富加村が富加町となり、1市7町となる
9月	犬山市と相互応援協定を締結
10月	中消防署に消防ポンプ自動車を配備
11月	特別消防隊結成 隊員13名
昭和50年 3月	副管理者 飯田 藤行 氏 の後任に 荒井 正義 氏 (八百津町長) 選任
4月	消防職員100名
昭和51年 3月	管内クレーン保有業者と応援協定を締結
4月	消防職員105名 可児ライオンズクラブより指令車の寄贈を受け、南消防署に配備 日本自動車工業会より救急自動車の寄贈を受け、南消防署に配備
8月	瑞浪市と相互応援協定を締結
12月	南消防署に水槽付消防ポンプ自動車を配備
昭和52年 4月	消防職員109名
10月	管理者 岸 東八郎 氏 の後任に 高橋 三郎 氏 (美濃加茂市長) 選任
12月	日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け、富加出張所に配備
昭和53年 3月	初代消防長 松田 宮吉 退職
4月	二代目消防長 渡辺 休一 就任 消防職員115名 本部に広報車を配備
10月	日本損害保険協会より化学消防自動車の寄贈を受け、南消防署に配備
12月	東洋工機株式会社より指令車の寄贈を受け、中消防署に配備
昭和54年 3月	日本自動車工業会より救急自動車の寄贈を受け、御嵩出張所に配備 航空自衛隊岐阜基地と航空事故に伴う災害発生時の連絡調整に関する協定を締結
4月	消防職員126名 森山、西可児分遣所竣工開所 消防ポンプ自動車を配備
8月	本部庁舎用地購入
9月	本部庁舎起工式
12月	八百津出張所に救急自動車を更新配備 中濃消防組合と相互応援協定を締結
昭和55年 1月	南消防署に小型動力ポンプ付水槽車を配備
2月	西可児分遣所に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備
3月	本部庁舎竣工 二代目消防長 渡辺 休一 退職
4月	三代目消防長 溝口 智敏 就任

昭和55年	4月	消防職員137名
	7月	本部庁舎竣工式並びに組合消防10周年記念行事開催
	10月	医療法人馨仁会藤掛病院より救急自動車の寄贈を受け、南消防署に配備 日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け、川辺出張所に配備 加茂地区危険物安全協会より軽トラックの寄贈を受け、中消防署に配備 中消防署に小型動力ポンプ付水槽車を配備 本部に連絡車を配備
	11月	森山分遣所に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備
昭和56年	2月	南消防署に消防無線基地局を設置
	3月	組合章及び組合旗制定
	4月	加茂郡東部三町村（七宗町、白川町、東白川村）組合加入 構成市町村11となり 1市2郡全域となる 消防職員155名
	7月	三代目消防長 溝口 智敏 退職
	8月	四代目消防長 渡辺 寅男 就任
	10月	東消防署竣工開署 職員13名、水槽付消防ポンプ自動車1台、広報車1台、救急自動車1台を配備 七宗出張所竣工開所 職員9名、水槽付消防ポンプ自動車1台を配備 益田地区広域町村圏事務組合と相互応援協定を締結
	12月	日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け、東消防署に配備 七宗出張所に救急自動車、軽トラックを配備
昭和57年	3月	消防無線基地局笹山中継所設置
	4月	構成の可児町が可児市となり、2市8町1村となる 消防職員176名
	7月	可児地区危険物安全協会より防火査察車の寄贈を受け、南消防署に配備
	10月	恵北消防組合と相互応援協定を締結 恵那市と相互応援協定を締結
	11月	東白川分遣所竣工開所 救急自動車を配備 富加出張所に救急自動車を更新配備
	12月	副管理者 林 桂 氏 の後任に 鈴木 告也 氏（可児市長）選任 川辺、八百津出張所に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備
昭和58年	1月	土岐市と相互応援協定締結
	2月	本部に救助工作車を配備
	3月	東可児分遣所竣工開所 水槽付消防ポンプ自動車を配備 御嵩出張所庁舎増築竣工 御嵩出張所に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備 本部に資機材搬送車を配備 各務原市と相互応援協定を締結

昭和58年	4月	消防職員184名
	8月	南消防署に広報車を配備
	9月	9.28災害…9月28日夜台風10号崩れの豪雨により木曾川が氾濫、洪水が美濃加茂市太田町、可児市土田、坂祝町、八百津町、白川町の住宅地帯に浸水、床上浸水2,227戸をはじめ、1,873世帯及び公共施設が被災した 富加出張所に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備
	12月	本部に連絡車を更新配備 日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け、中消防署に配備 岐阜県救急医療情報システム運用開始、医療機関案内のため本部に地域情報センターとして端末機を設置し、業務開始
昭和59年	3月	富加、川辺、八百津出張所車庫のひさし増設 本部に指令車を配備
	4月	消防職員182名
	6月	加茂地区危険物安全協会より査察車の寄贈を受け、中消防署に配備
	10月	中消防署に水槽付消防ポンプ自動車を更新配備
	11月	中消防署に化学消防車を更新配備
昭和60年	3月	本部に連絡車を配備 御嵩出張所に軽トラックを配備 四代目消防長 渡辺 寅男 退職
	4月	五代目消防長 安田 守 就任 消防職員181名
	6月	美濃加茂市消防行政無線開局にともない中消防署に災害緊急放送の端末機設置
	8月	南消防署に救命用アルミボートを配備 岐阜県総合防災訓練が八百津町で実施される
	9月	管理者 高橋 三郎 氏の後任に 渡辺 博万 氏（美濃加茂市長）選任
	10月	東白川分遣所にホース乾燥塔設置
	11月	第6回岐阜県らっば競練会及び消防大会が美濃加茂市で開催される 東白川分遣所に消防ポンプ自動車（ホースカー付）を配備
昭和61年	2月	本部、中消防署に岐阜県防災行政無線電話を設置 通話開始
	3月	西可児分遣所車庫増築工事完成
	4月	消防職員182名 東消防署に救命用アルミボートを配備
	7月	八百津出張所車庫増築工事完成 八百津出張所に軽トラックを配備
	12月	中消防署倉庫（鉄骨平屋建112.5㎡）建築
昭和62年	3月	南消防署に救急自動車を更新配備
	4月	消防職員183名 可児市鳩吹山林野火災発生（焼損面積約90ha）

昭和62年	8月	東消防署に広報車を更新配備
	9月	富加出張所車庫増築工事完成 富加出張所に軽トラックを配備
	10月	八百津出張所庁舎増改修工事完成
昭和63年	3月	南消防署庁舎竣工 管内消防相互応援協定締結 五代目消防長 安田 守 退職
	4月	六代目消防長 福田 重弘 就任 消防職員 186名
	6月	南消防署に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備 川辺出張所に軽トラックを配備
	8月	川辺出張所庁舎増改修工事完成
平成元年	4月	消防職員 189名
	7月	御嵩出張所に救急自動車を更新配備
	8月	岐阜県総合防災訓練が美濃加茂市ライン公園で実施される 日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け、八百津出張所に配備
	9月	富加出張所庁舎増改修工事完成
	10月	南消防署にはしご付消防自動車（30m級）を配備 南消防署に資機材搬送車を配備
平成 2年	4月	消防職員 192名 組合消防20周年記念号発刊
	10月	東消防署に軽トラックを配備
	12月	御嵩出張所庁舎増改修工事完成
平成 3年	2月	社団法人日本自動車工業会より救急自動車の寄贈を受け、南消防署に配備
	3月	南消防署の救急自動車に自動車電話を取付 六代目消防長 福田 重弘 退職
	4月	七代目消防長 木村 武 就任 消防職員 197名
	7月	八百津出張所庁舎増改修工事完成
	11月	本部予防課に査察車を更新配備
平成 4年	2月	中消防署の救急自動車に自動車電話を取付 日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け、川辺出張所に更新配備
	4月	消防職員 204名 本部に消防長車を更新配備
	6月	東海建設株式会社よりステーションワゴン車の寄贈を受け、本部に配備 東海建設株式会社よりテント2張の寄贈を受け、中消防署・南消防署に配備
	7月	南消防署に査察車を更新配備

平成 4年 9月	日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け、七宗出張所に更新配備
10月	消防本部庁舎増改築及び外壁吹付け塗装工事完成
平成 5年 1月	南消防署に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備
2月	富加出張所に救急自動車を更新配備
4月	消防職員 210名
5月	医療法人馨仁会藤掛病院より救急自動車の寄贈を受け、南消防署に更新配備
7月	本部予防課に査察車を更新配備 中消防署に査察車を更新配備 日本防火協会より防火広報車の寄贈を受け、本部予防課に配備
8月	南消防署に広報車を更新配備
9月	本部に救急研修センター開所
10月	管理者 渡辺 博万 氏 の後任に 川合 良樹 氏（美濃加茂市長）選任
12月	東消防署、森山分遣所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備
平成 6年 3月	岐阜県防災ヘリコプター応援協定を締結 七代目消防長 木村 武 退職
4月	八代目消防長 加藤 義明 就任 消防職員 214名 救急波無線開局
10月	水難救助隊発足 隊員 8名 森山分遣所に軽トラックを配備
12月	副管理者 鈴木 告也 氏 の後任に 山田 豊 氏（可児市長）選任
平成 7年 1月	中消防署仮眠室、待機室増改築工事
2月	南消防署に化学消防ポンプ自動車、七宗出張所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備
3月	中消防署、南消防署、東消防署に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備 消防本部に連絡車を更新配備
4月	消防職員 217名 南消防署に高規格救急自動車を配備 花フェスタ開催中会場内に消防詰所設置（4月26日～6月4日）
8月	南消防署西可児分遣所救急業務開始
10月	中消防署森山分遣所救急業務開始
12月	中消防署八百津出張所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備
平成 8年 2月	南消防署に小型動力ポンプ付大型水槽車（Ⅱ型）を更新配備
3月	副管理者 荒井 正義 氏 の後任に 赤塚 新吾 氏（八百津町長）選任
4月	消防職員 222名 南消防署東可児分遣所救急業務開始
9月	東消防署に救急自動車を更新配備 中消防署森山分遣所に救急自動車を更新配備

平成 8年11月	消防本部通信指令室及び中消防署車庫増築工事完成
12月	中消防署、南消防署に耐震性貯水槽（60t）設置
平成 9年 1月	南消防署御嵩出張所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備
3月	中消防署に小型動力ポンプ付大型水槽車（Ⅱ型）を更新配備 南消防署御嵩出張所に軽広報車を更新配備
4月	消防職員222名 通信指令室を通信指令課に改称 消防緊急通信指令システム運用開始 中消防署署長室増改修工事
7月	加茂、可児医師会と災害医療救護活動協定を締結
10月	中消防署に高規格救急自動車を配備
12月	中消防署川辺出張所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備 南消防署に救助工作車（Ⅱ型）を配備
平成10年 3月	可児ライオンズクラブより消防啓発広告塔の寄贈を受け、南消防署に設置 八代目消防長 加藤 義明 退職
4月	九代目消防長 井上 貞夫 就任 組合規約改正（議員定数の変更） 可茂地域消防連絡協議会発足 消防職員218名
6月	東消防署に指令車を配備 中消防署に資機材搬送車を更新配備
7月	中・南・東消防署にエアーテントを配備
8月	東消防署に救助隊発足 中消防署八百津出張所に軽広報車を更新配備
10月	岐阜県緊急消防援助隊訓練を「ふれあいパーク緑の丘」で実施 携帯電話等119番通報受信業務運用開始
11月	全国消防長会東海支部役員会を開催
平成11年 2月	各出張所に簡易救助器具（パッケージルーカス）を配備
4月	消防職員222名
6月	本部に救命ボートを配備
8月	中消防署富加出張所に軽広報車を更新配備
12月	南消防署東可児分遣所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備 南消防署西可児分遣所に救急自動車を更新配備
平成12年 4月	消防職員223名
6月	自動車からの緊急通報受信業務開始 中消防署川辺出張所に軽広報車を更新配備 消防本部、中消防署空調設備改修工事完成
7月	組合消防発足30周年記念号発刊

平成12年11月	中消防署富加出張所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備 東消防署に高規格救急自動車を配備
平成13年 3月	九代目消防長 井上 貞夫 退職
4月	十代目消防長 渡辺 秀昭 就任 組合規約改正（煙火消費許可事務） 消防職員227名 可児市よりステーションワゴン車及び軽トラックの無償譲与を受け、南消防署に配備
7月	東消防署改修工事完成
8月	南消防署御嵩出張所に救急自動車を更新配備
12月	中消防署に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備
平成14年 3月	十代目消防長 渡辺 秀昭 退職
4月	十一代目消防長 平岡 富弘 就任 消防職員227名 南消防署西可児分遣所を南消防署西可児分署に機構改革
8月	東消防署に資機材搬送車を配備
9月	南消防署西可児分署改修工事完成
11月	南消防署に軽トラックを更新配備
12月	中消防署八百津出張所に高規格救急自動車を配備 庁内LAN構築
平成15年 1月	中消防署に化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を更新配備
2月	東消防署東白川分遣所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ-A型）を更新配備 中消防署に救助工作車（Ⅱ型）を更新配備
3月	南消防署御嵩出張所増改築工事完成 十一代目消防長 平岡 富弘 退職
4月	十二代目消防長 大塚 森夫 就任 消防職員233名 南消防署御嵩出張所を南消防署御嵩分署に機構改革 KAMOnet運用開始
8月	西可児分署及び七宗出張所に軽広報車を配備
10月	東可児分遣所に救急自動車を更新配備
11月	中消防署仮眠室増築工事
12月	御嵩分署に高規格救急自動車を配備
平成16年 1月	可茂消防事務組合公式ホームページ運用開始
2月	中消防署にはしご付消防自動車（30m級）を配備
3月	東消防署に広報車を配備 八百津出張所建設用地購入 パジェロ製造（株）より指令車の寄贈を受け、中消防署に更新配備 日本消防協会より指令車の寄贈を受け南消防署に更新配備

平成16年	4月	消防職員 237名
	6月	南消防署に査察車を更新配備
	9月	東消防署七宗出張所に救急自動車を更新配備
	12月	南消防署に高規格救急自動車を更新配備 中消防署八百津出張所移転新築工事完成
平成17年	2月	豊田市・瀬戸市・多治見市・土岐市・中濃消防組合と東海環状自動車道に伴う消防・救急業務応援協定を締結
	3月	消防本部に消防長車を更新配備 東消防署増改築工事完成 十二代目消防長 大塚 森夫 退職
	4月	十三代目消防長 渡辺 益巳 就任 消防職員 237名
	5月	構成の兼山町が可児市となり、2市7町1村となる
	9月	南消防署に広報車を更新配備 消防本部に指揮車を更新配備
	10月	管理者 川合 良樹 氏の後任に 渡辺 直由 氏(美濃加茂市長)選任
	12月	中消防署富加出張所に救急自動車を更新配備
平成18年	1月	中消防署川辺出張所に救急自動車を更新配備
	3月	消防本部通信指令課 指令台リニューアル工事一式 (完成)
	4月	消防職員 243名 岐阜県LPガス協会可茂支部と災害時におけるLPガスの供給に係る応援協定を締結 岐阜県石油商業組合可児支部・加茂支部と災害時における石油類燃料の供給に係る応援協定を締結
	12月	南消防署西可児分署に水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)を更新配備
平成19年	1月	南消防署西可児分署に高規格救急自動車を配備
	3月	消防本部・中消防署庁舎耐震補強工事(完成) 消防本部に人員搬送車を更新配備
	4月	消防職員 251名
	6月	消防本部・中消防署に査察車を更新配備
	10月	中消防署に高規格救急自動車を更新配備
平成20年	2月	南消防署に人員搬送車を更新配備
	4月	消防職員 250名
平成21年	2月	消防本部に連絡車を更新配備 南消防署に査察車を更新配備
	3月	南消防署はしご付消防自動車(30m級)オーバーホール完了 岐阜県内の高速道路等に伴う消防・救急業務応援協定を締結 木曾川右岸用土地改良区連合と農業用水施設の緊急水利使用について協定を締結 十三代目消防長 渡辺 益巳 退職

平成21年 4月	十四代目消防長 山口 隆功 就任 消防職員 249名 消防本部に救急課を設置
6月	東消防署に広報車を更新配備
10月	南消防署に資機材搬送車を更新配備
平成22年 3月	中消防署森山分遣所に高規格救急自動車を配備
4月	消防職員 251名
7月	7. 15豪雨災害…梅雨前線の影響で7月15日から16日にかけて管内各地で集中豪雨が発生。特に可児市、八百津町では洪水、土砂崩れにより死者4名、行方不明者2名の甚大な被害をもたらした。
11月	副管理者 山田 豊 氏の後任に 富田 成輝 氏（可児市長）選任 （社）日本損害保険協会より高規格救急車の寄贈を受け、東消防署東白川分遣所に更新配備
12月	（財）救急振興財団より救急普及啓発広報車の寄贈を受け、中消防署に配備 南消防署に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備
2月	岐阜県ドクターヘリ業務応援協定を締結
平成23年 3月	消防本部通信指令課に高機能消防指令システムを更新配備 南消防署御嵩分署に軽広報車を更新配備 東日本大震災に伴う緊急消防援助隊派遣…3月11日14時46分、東北地方太平洋沖地震発生。緊急消防援助隊岐阜県隊として3月11日から4月1日まで車両5台、隊員31名を福島県へ派遣し、主に福島県相馬郡新地町にて救助活動、捜索活動、救急搬送などの支援活動を実施した。
	十四代目消防長 山口 隆功 退職
4月	十五代目消防長 坂井 清 就任 消防職員 253名 中消防署はしご付消防自動車（30m級）オーバーホール完了
9月	台風15号による集中豪雨災害…台風15号により9月20日から21日にかけて管内各地で集中豪雨が発生。特に白川町、御嵩町では洪水、土砂崩れにより死者1名、行方不明者1名の甚大な被害をもたらした。
11月	中消防署森山分遣所及び東消防署に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を更新配備 南消防署に高規格救急車を更新配備
平成24年 3月	中消防署川辺出張所建設用地購入
4月	消防職員 256名 消防本部の救急課を救急救助課に改称し、消防課の救助係を救急救助課へ移設
10月	東消防署に高規格救急自動車を更新配備
12月	東消防署に軽査察車を新規配備
平成25年 1月	南消防署に化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）、東消防署七宗出張所に水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ型）を更新配備 中消防署川辺出張所移転新築工事完成（2月 業務開始）

平成25年 3月	十五代目消防長 坂井 清 退職
4月	十六代目消防長 井藤 良三 就任 消防職員 255名 保安3法（「火薬類取締法」、「高圧ガス保安法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」）に係る業務開始
7月	管理者 渡辺 直由 氏の後任に 藤井 浩人 氏(美濃加茂市長)選任
9月	中消防署八百津出張所に高規格救急自動車更新配備
11月	南消防署に災害対応特殊屈折はしご付消防自動車新規配備
12月	(財)日本消防協会及び生活協同組合全日本消防人共済会より広報活動車の寄贈を受け、中消防署八百津出張所に更新配備
平成26年 2月	南消防署にポンプ付大型水槽車(Ⅱ型)を更新配備
3月	中消防署八百津出張所に水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅰ型)を更新配備 中消防署富加出張所建設用地購入及び土地交換契約の締結 消防・救急デジタル無線前進基地局新築工事完成(美佐野・笹山・上吉田・上佐見)
4月	消防職員 255名 消防救急デジタル無線運用開始
6月	中消防署に軽トラックを更新配備
9月	御嶽山噴火により死者57名、負傷者69名、行方不明者6名を出す戦後史上最悪の火山災害をもたらした。
10月	御嶽山噴火に伴い長野県知事の応援要請を受け緊急消防援助隊として職員2名派遣
11月	中消防署非常用高規格救急自動車を更新配備
平成27年 1月	南消防署御嵩分署水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅰ型)を更新配備 中消防署救助訓練塔新築工事完成
2月	中消防署富加出張所移転新築工事完成・業務開始 南消防署に指揮支援車(Ⅳ型)を新規配備
3月	中消防署にポンプ付大型水槽車(Ⅱ型)を更新配備
4月	消防職員 256名 救急救命士処置拡大に伴う運用開始
5月	第97回全国消防長会財政委員会を開催
10月	南消防署御嵩分署及び南消防署東可児分遣所に高規格救急車を更新配備
11月	中消防署川辺出張所水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)を更新配備 消防本部に連絡車を新規配備 中消防署富加出張所に軽広報車を更新配備
平成28年 3月	中消防署に指揮支援車(Ⅳ型)を新規配備 十六代目消防長 井藤 良三 退職
4月	十七代目消防長 八田 善明 就任 消防職員 260名
5月	伊勢志摩サミット特別警戒により隊員4名、情報員1名(ポンプ付大型水槽車含む)を派遣

平成28年	5月	消防救急アナログ無線運用終了
	9月	南消防署及び東消防署七宗出張所に高規格救急車を更新配備
	10月	中消防署川辺出張所に軽広報車を更新配備
	12月	東消防署に指令車を更新配備
平成29年	2月	中消防署に資機材搬送車を更新配備
	3月	消防本部に査察車を更新配備 高機能消防指令センター部分更新
	4月	消防職員260名 岐阜県広域消防相互応援協定を再締結（協定の見直し）

平成28年度フォトアングル



4月 高速道路における安全対策講習会



5月 伊勢志摩サミット消防特別警戒



6月 三消防本部水難救助合同訓練
(可茂消防 各務原市 犬山市)



7月 東海地区消防救助技術指導会
(三重県消防学校)



8月 甲種防火管理新規講習



8月 応急手当普及員講習



9月 緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練
(富山県)



10月 可茂地区危険物安全協会
消火器取扱競技会



11月 八百津トンネル防災訓練



12月 防火対象物立入検査



1月 文化財防火デーに伴う消防訓練
(八百津町)



3月 高機能消防指令センター
部分更新 (消防本部)